

○提案内容

(1) 実現したい都市のビジョン

【橿原キャンパスタウン～ひとと、まちも、社会も、元気に快適に～】

本市には奈良県立医科大学(以下、「医大」という。)および県下唯一の特定機能病院で全科が揃っている「医大附属病院」が立地しており、最先端医療を担う特定機能病院として奈良県全域の高度医療を担っています。また市内には医大を中心に120もの医療機関が立地するなど、医療環境が充実していることから、全世代が安心して生活できる環境が整っています。

現在、医大の教育・研究部門の移転を契機としたまちづくりを奈良県・医大・本市と3者で連携のもと進めており、対象地では、3つの基本方針「住み、歩き、訪れることで自然と健康になるウェルネスタウンの形成」「医療を中心に産学官が連携するメディカルタウンの形成」「環境にやさしく災害にも強いスマートタウンの形成」と、9つの取り組み①人々が健康になる機能が集積したウェルネスコアの形成②多様な人々が住まう「橿原スタイル」の実現③安全・快適で歩きたくするオープンスペースの整備④医工連携によるリビングサイエンスの推進⑤医農連携によるヘルスケアの推進⑥医観連携によるヘルスツーリズムの推進⑦超小型モビリティや自動運転の活用⑧環境に優しく災害時も強いエネルギーシステムの導入⑨まちの価値を高める水と緑のネットワークの形成をはかるものとして、橿原キャンパスタウン構想を進めています。

このような取組みを進めることで、健康と環境に焦点を定め、人々の暮らし方や都市としての活動に新たな機会や知的好奇心を満たすような刺激を提供するなど、オリジナルな価値を創出することにより、まちのブランド力を高め、多様な人々が集い、地区全体がキャンパスの様に活気溢れるまちづくりを目指します。

事業当初は、地区限定で実装する素地をつくり、市域全体の個々の生活に応じた最適な生活情報を提供し、日常生活において、移動や、購買、仕事、病院、観光情報などさまざまな分野で、最適化をシームレスに提供できるシステムを構築する。

(2) 新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>本市の人口は2010年の12万5千人をピークに緩やかに減少しており、国立社会保障・人口問題研究所によると、2060年には8万4千人まで人口減少が進み、高齢化率は2010年の22%に対して2060年には34%になると想定されるなど、人口減少・少子高齢化の傾向となっています。これからの超高齢社会に対して、高齢者が快適かつ安全に日常生活が送れる生活環境を整える必要があるとともに、高騰する医療介護費を抑制するために、地域の有する環境資源、文化資源、人的資源を総動員して医療福祉を支えていく力を内発的に生み出す必要があります。</p> <p>また、本市の交通環境については、市内に13の鉄道駅があるなど、鉄道の環境は比較的整っています。道路環境は、京奈和自動車や南阪奈自動車道、国道が4路線あり縦横に整備されていますが、本市の中心部である大和八木駅周辺および医大周辺の幹線道路のよりスムーズで安全で快適な仕組みを講じることで、移動時間の増大による経済的コストを抑え、交通事故の低減や住宅地内へ不用な車両の進入を防ぎ歩行者の安全性の確保が必要です。</p> <p>(ア)交通・モビリティ ・公共交通の充実や、新たな交通体系の確立により市内中心部の車両乗入の減少させる必要があります。 ・低炭素で、高齢者にもやさしい移手段を構築することが必要です。</p> <p>(イ)エネルギー ・地区内のエネルギーの最適化を図り、災害にも強く、低炭素で持続可能なまちを目指すことが必要です。</p> <p>(ウ)防犯 地域の子供、お年寄りの見守り活動を実施し安心・安全のまちづくりが必要です。</p> <p>(カ)健康・医療 ・ICTの活用による見守りサービスの確立や、既存の健康アプリの改良による新たな健康増進の取組みを実施し医療介護費を抑制することが必要です。 ・子育てに関して、産後うつや児童虐待など深刻な状況になる前に適切な支援を実施することが必要です。</p> <p>(シ)その他 少子高齢化への対応や新たな雇用の場の創出等、地域の新たな魅力を創出することが必要です。</p>	<p>(ア) (イ) (ウ) (カ) (シ)</p>

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

- ・自動運転技術の導入に先駆けて、まずは医大附属病院周辺での無人バス運行実証実験
- ・超小型モビリティの導入促進による低炭素な移動手段の拡大
- ・大和三山のひとつである畝傍山からの伏流水を利用した「地下水熱」の再生可能エネルギーを利用
- ・電柱や自動販売機に監視カメラやセンサーを設置し、ICT技術の導入による地域の防犯・治安維持
- ・市と医大附属病院の連携による「妊娠時から子育て世代包括見守り」を実施し、リスクのある妊産婦を早期に発見・支援することによる深刻な状況の予防と、医療従事者の負担の軽減
- ・かしはら“元気応援”プロジェクトの一環として、ウォーキングアプリを活用し本市のオリジナルウォーキングコースを歩くことでポイントが貯まり「特定健診無料受診券」に応募することができる取り組みを既に実施しており、今後、アプリの機能拡大や健康増進に寄与する媒体となるよう発展を図る

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

- ・医大附属病院周辺の駐車場が混雑しているため、近くの駅である畝傍御陵前駅にある市営駐車場を活用したパーク&ライドを実施し、市営駐車場から、あるいは、榎原神宮前駅から医大附属病院までの区間を自動運転による無人バスを運行することで、医大附属病院周辺への車両流入を抑制し、交通渋滞の緩和に努めます。
- ・ICTの活用により、病院利用者のバイタルデータの把握が在宅のまま医大附属病院が把握することが可能となることや、受診後の料金の精算などが携帯電話等の端末から行うことが可能となることで、医療サービスのさらなる充実を図ります。
- ・市民の方々やICTカードを活用した健康支援・買い物支援を踏まえた地域包括ケアシステムの構築、あるいは、本市へ観光にこられた方々には、医療ツーリズムを含めた観光案内や交通系乗車カードで利用できる仕組みを構築します。

(5) その他

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
総合政策部	若森	0744-21-1117	chiikisozo@city.kashihara.nara.jp